

百万人のMutt

～Mutt活用講座～

滝澤隆史

takeki@cyber.email.ne.jp

第7回 IMAP



前月号の始めに1.4がもう出ているのではないかと書きましたが、執筆時点では未だにベータの状態、バージョンは1.3.23i(beta)です。

今回は前回の予告通りIMAPの機能について紹介します。

特徴

まず、MuttにおけるIMAPの特徴をここでいくつか挙げてみましょう。

・キャッシュファイルを作らない

メッセージのキャッシュファイルを一切生成しないので、起動するたびにメッセージヘッダを取得します。そのため、開くメールボックスにメッセージがたくさんある場合には最初の表示に時間がかかります。

・MIME解析機能を使っていない

メッセージを表示するときに、パートごとではなく、メッセージ全体を取得します。添付ファイルがある場合は表示に時間がかかります。

・検索機能を使っていない

IMAPではサーバに検索を行わせることができるのですが、Muttでは自前で行ってしまいます。

・オフラインの機能はない

接続した状態でメッセージを読む必要があります。

こうして見てみると、良いところはなさそうですね。良くも悪くもMuttにおけるIMAPの扱いは、単なるリモートフォルダとしての扱いし

かされていないようです。しかしMuttの良いところは、欲しい機能がなければ、外部プログラムと連携させて使用できるという点です。

例えば、先ほど特徴として挙げた項目中に、MuttにはIMAP用の「オフラインでの機能がない」というものがありましたが、isyncを使えばオフラインでの使用が可能になります。実際の設定方法については、コラム「isyncを使ったオフラインでの利用方法」をご覧ください。低速な回線を利用している場合でも、isyncを使った方が快適に使えるでしょう。



前準備

configureのオプション

MuttでIMAPの機能を使うには、コンパイル時にconfigureのオプションとして「--enable-imap」を付ける必要があります。Cyrus SASLライブラリを使用したSASL認証を行う場合には「--with-sasl」オプションを付けます。POP over SSL/TLSを行いたい場合には、OpenSSLがインストールされているのを前提として「--with-ssl」オプションを付けます。後は必要なオプションを付けて、configureを実行し、コンパイル後、インストールしてください。



フォルダ

IMAPフォルダの記述方法

IMAPフォルダの設定は、1.3系列から採用された「IMAP URL」(リスト1)で記述します。リスト1の[と]で囲んでいる部分は、省略可能であることを示しています。従来から使われているPine互換の記述方法(リスト2)で記述することもできますが、過去のバージョンとの

互換性を保つためにあるようなものなので、IMAP URLの方を使うようにしてください。

いくつか指定例を見てみましょう。IMAPサーバのホスト名を「imapserver」として、メールボックス「mailbox」にアクセスする場合は次のように記述します。

```
imap://imapserver/mailbox
```

標準のポート以外の番号を使う場合は、サーバ名の後に「:」に続けてポート番号(ここでは993番)を付けます。

```
imap://imapserver:993/mailbox
```

IMAP over SSL/TLSでアクセスする場合は次のように「imaps:」で始めます。

```
imaps://imapserver/mailbox
```

リスト1を見ても分かる通り、ユーザー名とパスワードも記述できますが、後述するように、特に必要がなければ別に記述した方がよいでしょう。

メールボックスの記述方法

IMAPのメールボックスには「INBOX」という名前のメールボックスが予約されています。これはユーザーのスプールメールボックス(届けられたメールが標準で入るところ)であることを示しています。INBOXに関しては、大文字小文字は関係ないので「inbox」と記述しても構いません。次に例を示します。

```
imap://imapserver/INBOX
```

INBOX以外のメールボックスを指定する場合、特に、階層化されたメールボックスを示す場合には、IMAPサーバによって記述方法が異なるので注意が必要です。メールボックスの階層を示すセパレータがサーバの実装によって異なるからです。

これは、IMAPの仕様を定めている「RFC 2060 IMAP4rev1」で、「セパレータは同じ1文字を使う」としか記述されていないためです。IMAPサーバのフリーな実装には、「UW IMAP」(記事末Resource[1]を参照)「Cyrus

【リスト1】IMAPフォルダの記述方法 (IMAP URL での記述)

```
imap[s]://[username[:password]@]hostname[:port]/mailbox
```

【リスト2】IMAPフォルダの記述方法 (Pine 互換での記述)

```
{[username[:password]@]hostname[:port] [/ssl]}mailbox
```

概要

MuttではIMAPをオフラインで使うことができます。しかし、オフラインで使う方法がないわけではありません。Muttの作者Michael Elkins氏が作っているisyncを使うことによりできます。isyncはIMAPサーバ上のメールボックスとローカルのMaildir形式のメールボックスを同期させるプログラムです。isyncを使ってメールボックスを開く前およびメッセージを処理した後に同期を行えばよいだけです。

インストール

isyncのサイト([4])からisync-0.5.tar.gz(執筆時点での最新バージョン)をダウンロードしてください。コンパイルとインストールは**実行例A**のようにします。

設定

設定ファイル`~/.isyncrc`を作ります。このファイルは、最初の行から始まり最初のMailboxオプションの前で終わる「グローバルセクション」と、Mailboxオプションで始まり次のMailboxオプションの前で終わる「メールボックスごとのセクション」からなります。#で始まる行はコメントとみなされます。設定例として、1つのIMAPサーバと同期する例を**リストA**に示します。

まず、グローバルセクションとして共通のものを記述します。同期するIMAPサーバが1つであるため、メールボックス周りの設定以外はほとんどここに記述することになります。Host、Post、User、Passは、サーバのホスト名、ポート番号、ユーザー名、パスワードを表します。RequireCRAMはCRAM-MD5認証を行うかどうかを指定します。RequireSSL、UseTLSv1は、SSL関連の設定ですが、使用しない場合はいずれも「no」にする必要があります。MailDir

は、後述する「Mailbox」があるディレクトリを示します。Expungeは、削除したファイルを実際に削除するかを指定します。

次に、メールボックスごとの個別のセクションについて記述します。ほとんどの内容はグローバルセクションに記述したので、リストAの例では最小限のもの指定していません。「Mailbox」はローカルのメールボックスを示します。BoxはIMAPのメールボックスを示します。Aliasはコマンドラインで使用するショートカット名です。

実行例

同期を行う前にあらかじめローカルのメールボックスを作成する必要があります。なければ、qmailやNullmailerなどに含まれているmaildirmakeコマンドで作成するか、Muttで作成してください。

この設定例の場合は次のように実行すると同期が行われます。

```
$ isync inbox mbox record postponed
```

【リストA】~/.isyncrcの設定例

<pre># Global Section Host imapserver Port 143 User foo Pass secret RequireCRAM yes RequireSSL no UseTLSv1 no MailDir ~/Mail Expunge yes # INBOX Mailbox inbox Box INBOX Alias inbox</pre>	<pre># INBOX.mbox Mailbox mbox Box INBOX.mbox Alias mbox # INBOX.record Mailbox record Box INBOX.record Alias record # INBOX.postponed Mailbox postponed Box INBOX.postponed Alias record</pre>
--	---

【実行例A】isyncのコンパイルとインストール

```
$ cd isync-0.5
$ gzip -dc isync-0.5.tar.gz | tar xvf -
$ ./configure
$ make
$ make check
# make install
```

【リストB】「\$」の入力でisyncを実行し、メールボックスの同期を行う設定

```
folder-hook ^A bind index $ sync-mailbox
folder-hook =inbox 'macro index $ "<sync-mailbox>!isync inbox\n"'
folder-hook =mbox 'macro index $ "<sync-mailbox>!isync mbox\n"'
folder-hook =outbox 'macro index $ "<sync-mailbox>!isync outbox\n"'
folder-hook =postponed 'macro index $ "<sync-mailbox>!isync postponed\n"
```

-Vオプションを付けるとセッションの様子が表示されます。

Muttの設定

次の設定を必ず行うようにしてください。

```
set maildir_trash=yes
```

この例ではフォルダに関して次のように設定します。

```
set mbox_type=Maildir
set spoolfile=~/.Mail/inbox
set folder=~/.Mail
set mbox="mbox"
set record="record"
set postponed="postponed"
```

さらにリストBのように設定すると、「\$」を入力するとisyncが実行され、開いているメールボックスの同期が行われます。(滝澤隆史)

IMAP Server」([2])、「Courier-IMAP」([3])の3つがあります。セバレータの文字としては、UW IMAPは「/」を、CyrusとCourierは「.」を使用します。前者の場合はローカルのディレクトリの表記のように表します。例えば、listの階層下にmutt-jというメールボックスがある場合は

```
list/mutt-j
```

のように表すことができます。後者の場合はニュースグループのように表します。例えば、

先ほどと同じメールボックスimapserverなら、

```
INBOX.list.mutt-j
```

のように表すことができます。ニュースグループが「fj.」で始まるのと同じように、メールボックスは「INBOX.」から始まります。これらの例をIMAPフォルダの形式で表すとそれぞれ次のようになります。

```
imap://imapserver/list/mutt-j
imap://imapserver/INBOX.list.mutt-j
```

フォルダの設定

まず\$spoolfileの設定をします。先ほど説明したように、IMAPのスプールメールボックスはINBOXなので、次のようにIMAP URLの形式で記述できます。

```
set spoolfile=imap://imapserver/INBOX
```

次に、\$folderの設定をします。通常はメールボックスの最上位階層を指定します。

【リスト3】DIGEST-MD5またはCRAM-MD5で認証を行う場合の設定

```
set imap_authenticators="digest-md5:cram-md5"
```

【リスト4】複数のIMAPサーバを使う場合の設定

```
account-hook . 'unset imap_user imap_pass'
account-hook imap://imapserver1/ 'set imap_user=foo imap_pass=secret1'
account-hook imap://imapserver2/ 'set imap_user=bar imap_pass=secret2'
```

```
set folder=imap://imapserver/
```

残りのフォルダの設定は「=inbox」、「=INBOX」、「=inbox」のように、\$folderを基準として指定すればよいでしょう。

また、メールボックスのセパレータが「/」または「.」以外の場合は、\$imap_delim_charsにセパレータを指定するようにしてください。これは、\$folderを示すショートカット「=」に置き換えるときに働きます。なお、デフォルトでは「/」が指定されています。

階層下にあるメールボックスをINBOXと並べて表示させたい場合は、\$imap_home_namespaceにメールボックスを含んでいるディレクトリのパスを指定します。例えば、サーバがCourier-IMAPの場合で、「INBOX.」の階層下にあるメールボックスを「INBOX」と並べて表示させるには

```
set imap_home_namespace=INBOX
```

とします。



認証

サポートしている認証方式

Muttは、IMAPの認証方式として、標準でANONYMOUS、GSSAPI、CRAM-MD5、LOGINの4つをサポートしています。ただし、configureのオプションに「--with-sasl」オプションを付けてコンパイルした場合には、ここに挙げたどの認証方式よりも優先して「Cyrus SASLライブラリ」を使用したSASL認証が採用されるようになります。Cyrus SASLライブラリ(Ver. 1.5.24)では、認証方式としてANONYMOUS、GSSAPI、KERBEROS_V4、DIGEST-MD5、CRAM-MD5、PLAINをサポートしています。

ここで認証方式について、簡単に説明しておきましょう。

「ANONYMOUS」は、その名前の通り匿名ログインを行うときの認証方法です。これは公開フォルダ^{*1}を見るために、IMAPサーバへログインするときに使用します。ANONYMOUS認証を行うには、ユーザー名を空白あるいは

anonymous とする必要があります。詳細については「RFC 2245」を参照してください。

「GSSAPI」はKerberos V、「KERBEROS_V4」はKerberos V4を用いた認証方法です。「DIGEST-MD5」と「CRAM-MD5」は、「チャレンジレスポンス型」の認証方式です。これらはすべて安全な認証方法です。セッションが盗聴されてもパスワードが盗まれる危険はありません。

GSSAPIまたはKERBEROS_V4についての詳細については「RFC 2222」を参照してください。DIGEST-MD5に関しては「RFC 2839」、CRAM-MD5に関しては「RFC 2095」になります。

「PLAIN」と「LOGIN」は平文で認証を行う方式です。そのためセッションが盗聴されればパスワードが盗まれてしまいます。通信路が暗号化されていない限り使用するべきではありません。PLAINに関する詳細については「RFC 2595」を参照してください。LOGINは規格化はされていません。

使用する認証方式

標準では次の優先度で認証を行います。

- 1 Cyrus SASL ライブラリを用いた認証
- 2 ANONYMOUS
- 3 CRAM-MD5
- 4 LOGIN

サーバ/クライアント共に利用可能な方法の中から優先度の高いもので認証を試みます。認証に失敗した場合は、次の優先度の方法で認証を試みたりせず、そこでサーバへの接続をあきらめます。

この優先度を変えたり、使用する認証方式を限定したい場合は設定変数\$imap_authenticatorsを用います。記述方法は優先度の高い順にコロン区切りのリスト形式で記述します。例えば、DIGEST-MD5またはCRAM-MD5で認証を行うならリスト3のように設定します。こうすると、サーバがDIGEST-MD5をサポートしていればDIGEST-MD5で認証を行い、サポートしていなければCRAM-MD5で

認証が行われます。

認証の設定

ユーザー名を\$imap_userに、パスワードを\$imap_passに指定します。設定例は次のようになります。

```
set imap_user=foo
set imap_pass=secret
```

\$imap_userの設定を行わない場合はローカルマシンでのユーザー名が設定されます。

IMAPフォルダの説明のところでIMAP URL中にもユーザー名やパスワードを記述できると書きました。しかし、\$imap_userを設定しないでIMAP URLでユーザー名を指定すると、他のIMAPフォルダにアクセスするときにもユーザー名を記述しなければならなくなります。そうしないと、ローカルマシンのユーザー名でログインしようとするからです。そのため、基本的には\$imap_userを設定するようにしてください。

なお、複数のIMAPサーバを利用する場合は、前号で紹介したaccount-hookを使用して、IMAPフォルダごとに\$imap_userと\$imap_passを設定してください。リスト4に、2つのIMAPサーバを利用する場合の設定例を示します。



新着メッセージの取得

新着メッセージのチェック間隔

\$timeoutで指定した秒数が経過した後、\$timeoutで指定した秒数が経過するか、あるいはキー入力が行われると、開いているメールボックスの新着メッセージのチェックが行われます。\$timeoutのデフォルト値は「600秒」と非常に長いので、これを15秒に変えてみます。

```
set timeout=15
```

なお、\$timeoutに0以下の値を設定するとタイムアウトなくなり、キー入力が行われるたびに新着メッセージのチェックを行うようになります。

キーの割り当て

IMAPサーバから新着メッセージを取得する機能「imap-fetch-mail」は、デフォルトではキーが割り当てられていません。デフォルトでは、新着メッセージのチェックを自動的に行うため、キーの割り当ては特に設定する必要はないかと思われます。しかし、チェック間隔を長くしている場合は、取得したいときに取得できた方がよいので、次のように割り当てます。

*1 メールリストのアーカイブを「公開フォルダ」として公開しているものもあります。

```
bind index G imap-fetch-mail
bind pager G imap-fetch-mail
```

なお G キーは、デフォルトでは POP サーバからメッセージを取得する fetch-mail 機能が割り当てられています。



操作

以上でIMAPを利用するのに最低限必要な設定が終わりました。ここでMuttを起動して、簡単な操作を行ってみましょう。ここでは、サーバにCourier-IMAPを使っている場合の例を示します。

インデックスとページャ

起動すると、スプールであるINBOXのインデックス画面が開き、メッセージのヘッダを取得して、インデックスを表示します(画面1)。見ての通り、ローカルフォルダを開いている場合と違いは特にありません。メッセージを読むときに、実際のメッセージを取得するため、ワ

Column

こんにちは。寺田と申します。

1年前に初めてPC-UNIXに触れて以来、メールソフトにはMuttを使っています(つまりMutt歴1年)。当初はNetBSD、FreeBSD、Red Hat Linuxなどをインストールしましたが、結局、Debian GNU/Linuxに落ち着きました。以下では、Debian GNU/Linux 2.2 (potato)でMuttを使っている場合に、僕が便利だと思っている設定などを紹介します。

Debian パッケージについて

「自分でソースコードからインストールするのは面倒だ」という方のためにDebianパッケージを作ってみました。

Debianの公式パッケージにはmuttとmutt-jaとがあります。前者は日本語を扱うには難がありますし、後者はMuttのバージョンが0.95.4i.jp2です。Muttの最新版(開発版)である1.3.xをインストールする場合、自分でソースコードからコンパイルしてインストールすればよいのですが、自前でmakeするのは面倒だという方のために、Debianパッケージを作ってみました。パッケージは、Resource[5]に示すサイトに置いてありますので、バイナリパッケージ(mutt-j.1.3.x-y_i386.deb)を利用してください。

インストールする手順は次のようになります。

まず、S-Lang ライブラリが必要なので、

```
apt-get install slang1-ja
```

のようにしてS-Langをインストールします。次にMuttのインストールを行います。上記のdebファイルは公式Debianパッケージのmuttやmutt-jaと同時にインストールすることはできないので、これらをインストールしている人は、

```
apt-get remove mutt-ja
```

のようにしてそのパッケージを削除してください。
そして、上記のサイトからダウンロードしたdeb
ファイルを

```
dpkg --install mutt-j_1.3.x-y_i386.deb
```

とすればインストールは完了です。

なお、オリジナルのドキュメントと日本語パッチに付属するドキュメントは、usr/doc/mutt-j/以下にインストールされますが、日本語のマニュアルはインストールされません。必要な方は、「Japanese Mutt Manual」〔6〕からダウンロードしてください。

画面の表示について

Muttの画面が乱れる場合は、環境変数COLORFGBG

を設定してみましょう。

ばくがMuttを初めて起動したとき、ターミナルの様子ががらっと変ってびっくりしました。普段ktermを利用していて、背景色はグレイ、行間を3ピクセルに設定しているのですが、Muttを起動してメールボックスを開くと、黒とグレイのしましま模様になるのです。

そこで、マニュアルを読んで「color normal black white」という設定にしてみました。しかし画面の様子は変わったものの、ぼく好みとする「背景色＝グレイ」、文字色＝黒」という表示にはなりません。マニュアルをよく読むと、「S・Lang を使用する場合には、環境変数 COLORFGBG を設定するように」とありました(マニュアルの「3.7 色属性と白黒属性を使う」を参照)。

結局、試行錯誤の結果、シェルの設定ファイルで環境変数 `COLORFGBG` を `export COLORFGBG="default; default;"` のように設定し、`Mutt` の設定ファイル (`~/.mutt/muttrc` など) で `color normal default default` とすることで、背景と行間はグレイ、文字は黒、という望みの表示になりました。

なお、似たような問題として、「文字が太字になる」と「文字がある部分と文字のない部分とで背景色が異なる」という場合もあるかと思います。この場合にも環境変数 `COLORFGBG` を設定するとうまくいくみたいです。

ただ、この辺の話は、OSや使用するターミナルの種類 (kterm や rxvt など) によって挙動が異なるようです。Mutterm の color コマンドによる設定、環境変数 COLORFGBG の設定、ターミナルの設定 (~/.Xresources) 当たりについて、試行錯誤は必要かもしれません。

キーバインドの変更

メールの本文を読むときに、jキー、kキーでスクロールするようにキーバインドを変更しました。

Muttでは、インデックス画面(メールボックス内のメッセージの一覧画面)では、jキーとkキーで上下に移動し、ページ画面(メッセージの本文を表示する画面)では、jキーで「次のメール」、kキーで「前のメール」に移動するようにキーが割り当てられています。ページ画面でメールの本文を1行ずつスクロールするには、ReturnキーとBackSpaceキーとなっています。スクロールするのにReturnキーはともかくBackSpaceキーのままでは使いづらさを感じます。

柔軟なカスタマイズが可能なMuttですから、キーバインドを変更しすることにしました。ぼくは普段lessやviでテキストを読み書きするとき、jキーとkキーで上下に移動しているので、ページ画面でもjキー、kキーで1行ずつスクロールするようにしました。これは、Muttの設定ファイル(~/mutt/muttrc等)に以下の設定を加えればOKです。

```
bind pager j next-line
bind pager k previous-line
```

この設定を行うと、ページャ画面でもともと設定されていた、jキーで「次のメールに移動」、kキーで「前のメールに移動」という設定は無効になります。

しかし、大文字の「J」キーには「次のエントリに移動」、
「K」キーには「前のエントリに移動」という機能が割り
当てられているので、ページ画面のままメッセ
ージを移動するときは「J」キー、「K」キーを使えば不自由
はないと思います。

ソースパッケージについて

冒頭でお話したDebianパッケージをカスタマイズしようとする人向けに、パッケージ作成の際に行った修正点等について触れておきます。主な修正箇所は次の通りです。

・Debian パッケージの S-Lang は、ライブラリ名が「libslang-ja.so.1」となっているので、configure および configure.in 中にある「-lslang」という部分を「-lslang-ja」に修正。

「Gnupgがすぐに使えたら便利かな」と思い、デフォルトの設定ファイル(/etc/Mutttrc)にgnupgに関する設定を追加。

・JAパッチに付属する日本語ドキュメントを英語のドキュメントと同様に /usr/doc/mutt-j/ 以下にインストール。

その他にも細かい修正点があります。詳細はソースパッケージの diff ファイルを参照してください。

また、configure時のオプションには以下のものを指定しています(ディレクトリの指定は省略しています)。

```
--enable-default-japanese
--without-wc-funcs
--with-slang
--enable-pop
--enable-imap
```

蛇足ですが、ソースコードを修正してMuttを使うのであれば、このパッケージをカスタマイズするより、自分でソースコードからインストールした方がよろしいかと思います。Muttの修正とDebianパッケージの修正とで二重に手間がかかってしまいますので。

(寺田学 terada@mab-jp.com)

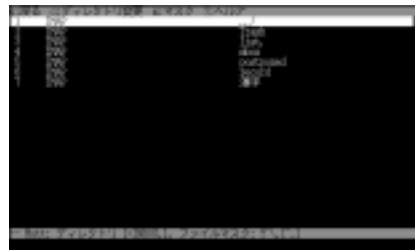
【画面1】INBOXのインデックス表示



【画面2】INBOX.の階層下のブラウズ



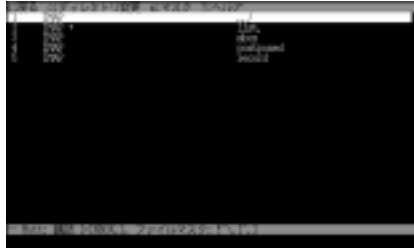
【画面3】IMAP ブラウザの作成



【画面4】mailboxesで新着メールをチェックする



【画面5】購読表示の例



【リスト5】メールボックス削除確認のメッセージ

```
メールボックス "INBOX.test" を削除しても良いか? ([no]/yes):
```

【リスト6】mailboxesを使った新着メッセージのチェック

```
mailboxes '!' =INBOX.list.mutt-j =INBOX.list.mutt-dev
```

ンテンが動作が遅れることを除けば、ローカルフォルダと同じ感覚で使用できます。

IMAP ブラウザ

c キー (change-folder) の入力後、「?」と入力すると起動するIMAPブラウザはローカルのファイルブラウザと同じようなものです。ここでは\$folderで指定したフォルダをブラウズしている例(画面2)と「INBOX.」の階層下をブラウズしている例(画面3)を示します。セパレータ(ここでは「.」)で終わっているものは、さらにその下にメールボックスなどがあることを示します。

IMAPブラウザでは、メールボックスを作成したり削除したりすることができます。Cキー(create-mailbox)を入力すると、メールボックスが作成できます。例えば、画面3の状態でCキーを入力すると、最下行に

```
メールボックスを作成: INBOX.
```

と表示されます。「INBOX.」に続けて、作成したいメールボックス名(ここでは「test.」)を入力し、Enterキーを入力します。

```
メールボックスを作成: INBOX.test
```

「メールボックス作成完了」というメッセージが表示され、testというメールボックスが作成されます。

「INBOX.」の下にさらに階層を作りたい場合、

専用の機能は特に用意されていないので、次のような手順で行います。先ほどと同じく、Cキーを入力してメールボックスを作成するときに、作成したい階層名(ここでは「list.」)に続けて、新しいメールボックス(ここでは「mutt-j.」)を入力してください。

```
メールボックスを作成: INBOX.list.mutt-j
```

これでメールボックス mutt-j が作成できます。メールボックスを削除するときにはキーdキー(delete-mailbox)と入力します。例えば、カーソルを「test.」に合わせてdキーを入力するとリスト5のようなメッセージが表示されます。「y」と入力すると、メールボックス削除後、「メールボックス削除」というメッセージが表示されます。このとき、IMAPブラウザを開く直前に作業していたメールボックスは削除できないので注意してください。

もう一つ、IMAPブラウザの機能として「購読」というものがあるのですが、これに関しては後述します。

以上で、基本的な設定と操作の説明が終わりました。次に応用的な設定や操作を紹介します。



新着メッセージの取得 その2 メールボックス

IMAPサーバ上でメッセージのフィルタリングができない環境では意味がないのですが、指

定したメールボックスごとに新着メッセージのチェックを行うこともできます。この場合、設定コマンドmailboxesを使って、新着メッセージをチェックするメールボックスを指定します。

例えば、サーバがCourier-IMAPの場合で、メールボックス「INBOX.list.mutt-j」と「INBOX.list.mutt-dev」の新着メッセージをチェックする場合はリスト6のようにします。スプールメールボックスを示す「!」も追加しておくとう便利です。cキーで他のメールボックスに移るときに、新着メッセージがあるメールボックスが入力欄にその候補としてデフォルトで入るようになります。もちろんデフォルトをそのまま受け入れ、そのメールボックスに移ってからメッセージを読むのも良いでしょう。

このとき「?」と入力してIMAPブラウザを開いてTabキーを押すと、指定したメールボックスを一覧表示した画面が開きます(画面4)。左から2番目の数字は新着メッセージ数です。これを見ると、新着メッセージがどのメールボックスにどれだけあるかが分かります。移りたいメールボックスにカーソルを合わせてEnterキーを入力すれば、そのメールボックスに移動できます。なお、画面4では\$folder_formatを次のように変更して余計な表示を省いています。

```
set folder_format="%2C %t %2N %F %d %f"
```

IMAPしか使わないのであれば、もっと省いてもいいでしょう。

新着メッセージのチェック間隔

mailboxes コマンドで指定したメールボックスで、新着メッセージのチェックを行う間隔を秒数で\$mail_checkに設定します。デフォルトでは「5秒」と非常に短いので、60秒以上に設定します。ここでは120秒に設定してみます。

```
set mail_check=120
```



購読

IMAPには、決められた特定のメールボックスの一覧を表示するコマンドがあります。メールボックスをこの一覧で表示するためには、「購読」(SUBSCRIBE)する必要があります。この機能を用いることにより、普段読むメールボックスだけを購読すればメールボックスの一覧を表示した際に見やすくなるでしょう。

Muttでは、IMAPブラウザ上で、購読したいメールボックスにカーソルを合わせ、sキー(subscribe)を入力すると購読することができます。逆に、uキー(unsubscribe)と入力すると購読が解除できます。

購読したメールボックスのみを表示させるには、設定変数\$imap_list_subscribedを「yes」に設定してください。デフォルトは「no」になっています。

```
set imap_list_subscribed=yes
```

なお、IMAPブラウザ上でTキー(toggle-subscribed)と入力すると、購読のみの表示と全表示を切り替えることができます。必要なときのみ表示させるのであれば、\$imap_list_subscribedを設定せず、トグルの切り替えで済ませることができます。購読表示したときの例を画面5に示します。



接続時の動作

最後に、残りの設定変数を簡単に紹介します。ほとんどデフォルトのままが良いと思われますが、必要に応じて設定してください。

imap_passive

新着メッセージのチェックを行うときに新しいIMAP接続を開かないようにするかどうかを指定する設定変数です。デフォルトは「yes」です。

imap_peek

サーバからメッセージを取得したときに、既読フラグを付けないようにするかどうかを指定する設定変数です。メッセージを取得しただけで既読フラグが付いたらおもしろくないので、デフォルトの「yes」のままでよいでしょう。

imap_servernoise

IMAPサーバからのエラーメッセージを表示するかどうかを指定する設定変数です。デフォルトは「yes」です。

connect_timeout

サーバへの接続が確立できなかったときに、タイムアウトする秒数を指定する設定変数です。デフォルトは「30」です。

use_ipv6

IPv6が使えるならIPv6を使うことを指定する設定変数です。デフォルトは「yes」です。IPv6を使っていないのにうまく接続できないようでしたら、IPv4に制限するために「no」を設定してください。



最後に

この記事の始めの方でも書きましたが、MuttでのIMAPフォルダの扱いは「単なるリモートフォルダとしての認識しかない」と考えてください。そういうわけで、正直言って、たくさんのメッセージを処理する人は、サーバ上でフィルタリングをするか、高速な回線を利用するかしないかとやられてられないと思います。使ってみて耐えられないようでしたら、コラムで紹介したisyncを使ってみてください。

おまけのTips

設定変数の便利なコマンド



Tipsというよりは基本的なことですが、設定変数まわりの便利なコマンドをちょっと整理してみましょう。

現在値の確認

確認したい変数に、接頭語として「?」を付けて「set ?variable」のように実行します。

「no」の設定

変数に「no」を設定する場合、通常のsetコマンドで「set variable=no」としてもよいのですが、その変数の接頭語として「no」を付けて「set novariable」としたり、「unset」コマンドを使って「unset variable」としてもよいでしょう。

逆の値の設定

現在と逆の値を設定する場合、その変数の接頭語として「inv」を付けて「set invvariable」とするか、「toggle」コマンドを使って「toggle variable」と実行します。マクロで設定を切り替えたいとき

に重宝するでしょう。

デフォルト値に戻す設定

設定変数をデフォルトの値に戻す場合、その変数の接頭語として「&」を付けて「set &variable」とするか、「reset」コマンドを使って「reset variable」と実行します。

quadoptionタイプの設定

quadoptionタイプの変数はユーザーに処理を尋ねる変数です。毎回yesしか入力しないのであれば「yes」を、noしか入力しないのであれば「no」を設定します。そうすれば、逐一処理を聞いてなくなります。たまに違う処理をする可能性がある変数は、デフォルト値をyesとする「ask=yes」かnoとする「ask=no」を設定しておきます。例えば「ask=no」の場合は次のように設定します。

```
set variable=ask-no
```

<滝澤隆史>

Resource

- Mutt Japanese Edition
<http://www.emallab.org/mutt/>
- [1] UW IMAP
<http://www.washington.edu/imap/>
- [2] Cyrus IMAP Server
<http://asg.web.cmu.edu/cyrus/imapd/>
- [3] Courier IMAP
<http://www.inter7.com/courierimap/>
- [4] isync - imap<->maildir mailbox synchronize
<http://www.sigpipe.org:8080/isync/>
- [5] Mutt 1.3.23i-ja0 Debian GNU/Linux 用パッケージ
<http://www.mab-jp.com/mutt.html>
- [6] Japanese Mutt Manual
<http://ha4.seikyoku.ne.jp/home/Kohtaro.Hitomi/mutt/>